国際共同研究センター研究員一行が中国を視察し、
同済大学政治と国際関係学院と国際シンポジウムを共催

2026 年 3 月 2 日から 7 日にかけて、山梨学院大学は日中の高等教育協力と人的交流の深化を目的に、青山貴子学長の引率の下、国際共同研究センター長の熊達雲特任教授、大学院社会科学研究科科長補佐の東秀忠教授、国際共同研究センター副センター長の劉星教授、経営学部の阮玉玲特任講師からなる一行 5 名が、中国の北京・上海・杭州に所在する複数のトップクラス大学を訪問しました。一行は学術研究、学生交流、国際協力などの議題を中心に、4 日間にわたり学術訪問活動を実施しました。

3 月 3 日午前、訪問一行は最初に北京大学国際関係学院を訪問し、帰泳濤副院長および董昭華副院長と、国際情勢や学術交流など双方が関心を寄せる諸課題について意見交換を行いました。

同日午後、訪問一行は清華大学戦略と安全保障研究センター（CISS）を訪問しました。同センターは中国を代表する新進気鋭のシンクタンクの一つであり、国際秩序などに関する研究を通じて政策決定に資する参考意見や提言を提供するとともに、国際交流や協力を通じて中国の外交理念や政策主張の発信にも取り組んでいます。また、3 年にわたり継続実施している「中国人の安全保障観」に関する世論調査は、中国の学界のみならず世界各国においても着実に影響力を拡大しています。

座談会では、達巍センター長が同研究センターの概要を説明し、日中間の学術交流の一層の強化に対する期待を表明しました。あわせて双方は、現在の国際安全保障情勢や戦略研究の動向について意見を交わし、今後の両大学間における共同研究プロジェクトの実施、当該世論調査日本語版の翻訳・日本国内での公表、研究者の相互派遣などについて、初歩的な合意に達しました。

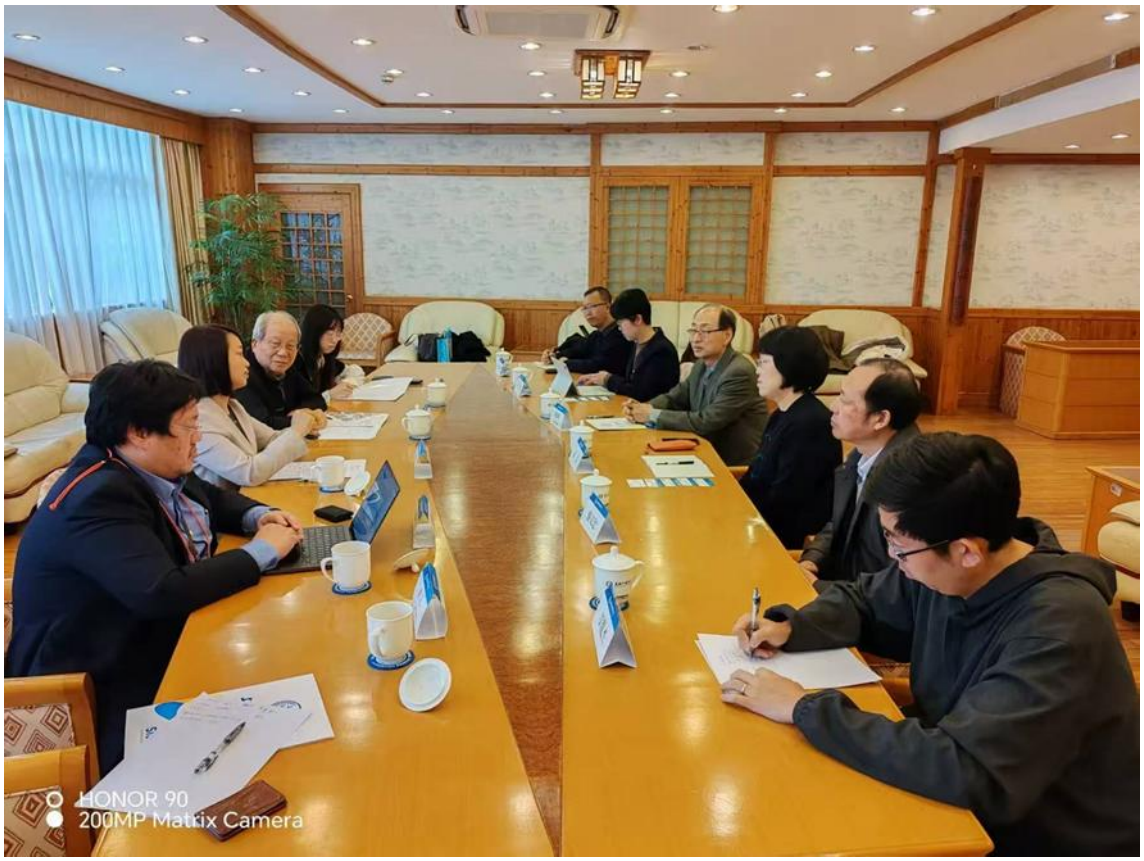
座談会終了後、一行は中国政法大学政治と公共管理学院王湘軍副院長、任洪生副院長など 3 名の教授と懇談会を行い、今までの交誼関係を振り返りながら 2026 年度本学で開催予定の日中韓三大学（韓国仁川国立大学校、中国政法大学、日本山梨学院大学）国際シンポジウムについて意見交換を行い、会議の成功のためにともに準備に取り組んでいくことを約束しました。

3 月 4 日午後、訪問一行は復旦大学を訪れ、同大学日本研究センターを訪問しました。同センターの賀平主任と王広濤副主任が座談会を主宰し、進行を務めました。

座談会では、双方の研究者が東アジアの政治経済や日中関係などの分野についてそれぞれの学術的見解を発表し、両研究センター間の一層の学術連携や共同研究プロジェクトの実施について活発な議論を交わしました。

3 月 5 日午前、訪問一行は上海外国語大学を訪問し、同大学の上海全球ガバナンスと地域国別研究院、ならびに日本文化経済学院とそれぞれ座談会を実施しました。

上海全球ガバナンスと地域国別研究院は、上海市人民政府の支援を受けて上海外国語大学が設立・運営する共同研究プラットフォームです。同研究院の常務執行院長である楊成教授は、研究院の概要や、グローバル・ガバナンスと地域国別研究における学問体系・学術体系・教育体系の構築強化に関する同院の強みについて説明し、地域研究分野における一層の連携の可能性について協議したいとの意向を示しました。



日本文化経済学院との座談会には、高潔院長、盛文忠副院長、中日韓協力研究センター常務執行主任の廉徳瑰教授らが出席しました。双方はそれぞれの大学の特色や学科の強み、国際化の取り組み成果を紹介するとともに、学生の相互派遣、共同育成プログラム、学術リソースの共有といった具体的な協力プロジェクトについて重点的に意見交換を行いました。

同日午後、訪問一行は同済大学において、同大学政治と国際関係学院と共同で『アメリカのドンロー主義と東アジア諸国の対応』をテーマとする国際シンポジウムを開催しました。

シンポジウム冒頭、山梨学院大学の青山貴子学長、ならびに同済大学政治と国際関係学院院長で教育部長江学者特聘教授の門洪華教授が開会の挨拶を述べ、世界的に不確実性が高まる中、日中両国の研究者による意見交換と学術交流の重要性を強調しました。

本シンポジウムは 2 つのセッションで構成され、両大学の研究者が戦略安全保障、経済・科学技術など多角的な視点から議論を展開しました。

「戦略と安全保障」セッションでは、以下の報告が行われました。

- 山梨学院大学国際共同研究センター長で法学部特任教授の熊達雲氏：『高市早苗政権下における日本の対外政策の動向と課題』
- 山梨学院大学国際共同研究センター副センター長で法学部教授の劉星氏：『トランプ政権と米中競争下の東アジア戦略情勢』
- 同済大学政治と国際関係学院副院長の鐘振明教授：『トランプ第二期政権のアジア太平洋同盟政策の調整と米中戦略的駆引』
- 同済大学政治と国際関係学院の阮功松助理教授：『自由覇権から交易覇権へ：インド太平洋戦略、ドンロー主義と東南アジア』

「経済と科学技術」セッションでは、以下の報告が行われました。

- 山梨学院大学大学院社会科学研究科科長補佐で経営学部教授の東秀忠氏：『ドンロー主義と電動化・電脳化の今後：産業競争と技術競争のロードマップ』
- 山梨学院大学経営学部の阮玉玲特任講師：『米中技術競争における都市イノベーション能力向上の空間的ロードマップ――深圳を事例として――』
- 同済大学政治と国際関係学院副院長の魯伝穎教授：『ドンロー主義と米中科学技術駆引』
- 同済大学政治と国際関係学院の李博英教授：『ドンロー主義下の東北アジア諸国の経済貿易協力』
- 同済大学政治と国際関係学院の丁迪准教授：『米国ドンロー主義科学技術政策の東アジアへの影響分析』

シンポジウムの閉会にあたり、山梨学院大学の青山貴子学長、同済大学政治と国際関係学院の門洪華院長は、それぞれ閉会の挨拶と総括を行いました。両者は本シンポジウムについて、多角的な視角から深度のある活発な議論が展開され、ドンロー主義とアジア諸国の対応、現在の東アジア国際関係の方向性、ならびに地域協力の意義を理解する上で重要な学術的知見がもたらされたと高く評価しました。

3 月 6 日午後、訪問一行は浙江工商大学を訪問し、同大学の稲盛商学院を中心に視察を行いました。

浙江工商大学発展委員会副主席で稲盛商学院院長の李軍教授、東方言語と哲学院院長で

稲盛商学院副院長の江静教授から、稲盛商学院の発展経緯、運営理念、そして多様な学術活動の展開状況について詳細な説明がありました。双方はこれまでの協力実績を振り返るとともに、今後の一層の連携に向けて意見を交換し、学生交流や質の高い国際学術会議の共催といった取り組みの可能性について議論を深めました。

今回の山梨学院大学訪問一行による中国訪問は、短期間の日程ながらも多大な成果を上げました。本学と中国の各パートナー大学との友好関係を強化しただけでなく、今後の高等教育および学術研究分野における多面的な日中協力に新たな活力をもたらすものとなりました。

（執筆：阮　玉玲、校正：熊　達雲）